

資料館 だより

Miyako
Kitakamisanchi
Museum of Folklore

No.28

宮古市北上山地民俗資料館

〒028-2302 岩手県宮古市川井2-187-1

TEL.0193-76-2167 FAX.0193-76-2933

<http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp>

令和4年3月31日発行

企画展「カイコを育てた道具」開催

当館が所蔵する養蚕で使われたさまざまな道具や関連する資料を紹介する企画展を令和3年10月22日から12月26日までの会期で開催しました。今回は養蚕用具のうち、主に昭和30年代頃まで使用されていたカイコの飼育道具や、えさとなるクワの葉を採取したり加工したりする道具を中心に、およそ70点の有形民俗資料を展示したほか、養蚕に関連した供養碑や信仰の資料も紹介しました。



展示会場の様子

カイコを育てて繭^{まゆ}をとる養蚕は、かつては貴重な現金収入源で、カイコのことを「おカイコ様」と呼んで大切に育てたといいますが、現在は身近に見る機会はほとんどありません。そのため、展示ではカイコガやクワの葉の標本、繭の実物についても紹介したり、養蚕についての記録写真をできるだけ多く展示して、展示資料を見る際に分かりやすくする工夫をしました。

養蚕に関わる信仰として「おしらさま」や「ミズキ団子」が知られていますが、小国地区には「蛇滝大神^{へびたきおおかみ}」という、カイコを食い荒らすネズミを除けるご利益があるとして、養蚕農家の人たちが、昭和30年代まで

盛んに信仰した神様のことも紹介できました。

また市内には「養蚕供養碑」が56基確認されています。その分布をみると江戸時代の終わりから明治時代を中心に小国川や刈屋川の流域に多く建立されています。その中には神と虫を合わせた実際には無い漢字でカイコを表した石碑もあり、数多くの供養碑が存在することとあわせて、当時の養蚕に携わった人たちの繭の豊作への願いをうかがい知ることができます。



「神虫」の養蚕供養碑（宮古市腹帯）※右は拓本

また、関連事業として繭玉細工を作る体験も行いました。参加者は繭玉に色を塗って模様を描き込んだり、耳や尻尾を貼ったりして、令和4年の干支^{えと}の寅^{とら}を作りました。

最後になりましたが、今回の展示では聞き取り調査、石碑の拓本、標本の作製などで多くの方にご協力をいただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。あわせて「三角まぶし」というカイコが繭を作るときの支えとなる道具の作り方を再現していただき、記録したときの様子は巻末の「資料紹介No.34」で報告します。



繭玉で寅を作る様子

◆「森の体験学習会」春・秋・冬

当館で所蔵する有形民俗資料の多くが地元の樹木を使って作られていることから、関連して北上山地の森林の様子や自然環境などについて学ぶ学習会を開催しています。今年度も春、秋、冬の各季節に、「かわい木の博物館」の協力を得て開催しました。



5月、春の薬師川流域（林道タイマグラ線）

5月は薬師川流域にある「鉄胎^{てつたい}の岩屋」を目指し、林道を歩きました。春の山野草や、さわやかな色合いの木々の芽吹きを観察できたほかにも、オオルリの美しい鳴き声を聞き、その姿も見ることができました。



10月、早池峰山ろく「イチイの森」

10月は、「かわい木の博物館第13号館イチイの森」を見学しました。大規模林道「悠久の道」トンネル付近から早池峰山^{たかびやま}に続く高桧山を目指し、登山道をゆっくり2時間ほどかけて散策しました。山中にイチイの大木が群落になっている例は少ないとのことで、岩の割れ目から育った「石割イチイ」や幹の内部が空洞化したイチイもありました。

1月は「かんじきをはいて雪原を歩こう」をテーマに、雪の区界高原にある「かわい木の博物館第1号館不伐^{ふばつ}の森」を散策しました。当館では昔ながらの「輪



「輪かんじき」をはいて区界高原での自然観察の様子かんじき」を体験用に持っており、実際に歩く体験と冬の自然観察会を合わせた内容です。リスやウサギなど小動物の足跡や、セッケイカワゲラという昆虫を見つけることができました。真冬の区界は県内最低気温の常連ですが、この日は天候に恵まれ思いのほか暖かく、雪の上に大の字になって寝転ぶ参加者もいました。

◆石碑見学会「鞭牛和尚^{べんぎゅうおしょう}の足跡をたどる」

新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、8月に予定していた見学会を10月に延期して実施し、川井地域にある鞭牛和尚ゆかりの道供養碑や顕彰碑を見学しました。宮古街道は閉伊川の蛇行した流れに沿い、長い歴史の中で川沿いの急峻な地形^{いくま}に幾重にも道路が開かれた箇所があります。その難所を開削した^{なんしよ}ところに道供養碑が建てられているので、後の水害で流失してしまったところや、アクセスが難しく、川の向かい側から眺めるしかないところもありました。

来年度は第2弾として、新里地域から下流域の見学会を開催する予定ですので、是非ご参加ください。



流月院境内にある鞭牛和尚の顕彰碑（川内地区）

◆地域に伝わる郷土食を学ぶ

当館では、昔から伝わる地域ならではの食材を使った郷土食の作り方を伝えていきたいと、地元の方に講師をお願いして学習会を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症への基本的な対策を行いながら、作ったものは持ち帰ることとして開催しました。

①「そば打ち体験教室」5月28日開催



こねたソバ粉をのし台の上でのす様子

細く切り分ける手間がかかる「そば切り」は、昔のもてなし料理でした。今年度は小国地区にある「里の駅おぐに」を運営する小国振興舎の皆さんを講師に、4名の参加者がそば打ちに挑戦しました。この日はゆで上げる実習は行わず、こねて切るところまでの体験となりましたが、参加者からは「ていねいに手ほどきを受けて作ることができた。」「楽しく作ることができ、自分でも作ってみたい」などの感想が寄せられました。

②「おこわと豆もち作り」12月10日開催

郷土食グループの鈴久名こだま会の代表、神楽栄子さんを講師に季節の食材を使ったおこわと、地域の特産品である黒豆を入れた豆もちの作り方を教わりました。神楽さんが一連の作業を行い、その様子を見学しながらの学習会となりました。作り方のコツを教わった参加者からは「もち米の使い方が分からなかったが、簡単に作れそうなので作ってみたい」、「いつも自



学習会の様子

己流でやっていたので参加してよかった」といった感想のほか、人数分の大量の材料を扱う「講師の手際よさ」に感心したという感想もありました。

◆ボランティア養成講座開催

「小国分館友の会」という当館の体験学習やイベントの開催にご協力いただいているボランティア団体があり、その皆さんや活動に興味のある方を対象に、展示解説の助けとなる内容の学習会を開催しています。今年度は三陸ジオパークのジオサイト「薬師川流域の古生界」に関連して開催しました。1回目は5月末に薬師川流域の自然観察を行いました。2回目は11月初めに県道25号沿いを歩きながら岩石の観察を行いました。講師からの説明で浄土ヶ浜と同じ石や、海底火山の痕跡などがあることが分かり、早池峰山のすそ野の地域に海と関連した地質があることに驚くほどの観察会となりました。



ジオサイト「薬師川流域の古生界」の自然観察会

◆ボランティア養成講座開催

地域に伝わる伝統的な技術を伝承しようと、「布ぞうり作り方教室」を開催しました。より多くの方に経験していただき、作り手や指導者を養成する目的でボランティア養成講座の一環として開催しています。講師は当館職員で、かつて地域の方を講師に「わらぞうり」や「わらじ」の作り方とあわせて布ぞうりの作り方教室を開催していたときに、作り方を伝授された経緯があります。年数を重ね、講師を務めることができるようになりました。実用的な布ぞうりだけでなく、伝統的な「わらぞうり」や「わらじ」なども作り方が途絶えないように伝承していきたい考えです。



布ぞうりの横緒をなう様子

◆夏の工作教室、冬の工作教室



麻ひもで鉢カバーを作る様子

所蔵する有形民俗資料の作り方に見られる技術を体験してもらおうと、夏休みと冬休みの時期にあわせて子どもたちを対象とした工作教室を開催しています。夏は漁具の「びん玉（浮き玉）」の保護網^{あみ}の作り方をアレンジした植木鉢のカバーを作りました。冬はヒエなどを蒸すときに使った「こしき」の編み方でコースターを作りました。どちらも編み物で、根気のいる作業でしたが、それぞれ編み方のコツをつかむと時間内で作品を仕上げることができました。

また、これとは別に市立川井小学校の放課後子ども教室の参加者を対象とした出前の工作教室を実施しました。7月には昔の遊びをテーマに、ブンブンごまやペットボトルキャップのこま作りをして遊んだほか、所蔵する昔の遊びに関する道具のミニ展示も行い



昔の遊び道具で遊ぶ様子（川井小学校放課後子ども教室）

ました。12月にはお正月飾りや繭玉細工^{まゆ}を作る体験をしました。

◆「お正月飾り」を作ろう

わら縄^{なわ}をなう技術を伝える目的で12月に開催しました。農作業などで使う右下がりの縄目の「右縄」に対して、神様にお供えする縄は左下がりの「左縄」で

す。縄ないの経験がある方ほど「左縄」をなうのが難しかったようです。好みの太さの3本よりの縄をなったあとは、輪^{みずひき}にして水引細工や折り紙の飾りをつけ、思いのお飾りを完成させました。



講座ではこのようなお正月飾りを作ります。

◆学校授業での見学

市内の津軽石小学校と鉾ヶ崎小学校の3年生の皆さんが社会科の授業で昔の暮らしや生活用具について学ぶため、見学に来てくださいました。



昔の教科書を見学する様子（津軽石小3年生）



昔の生活用具を見学する様子（鉾ヶ崎小3年生）

ほかにも田老第一小学校4年生の皆さんが遠足で訪れ、展示見学のほかに「くめんだけ」を作って遊ぶ体験をしました。



「くめんだけ」を作って遊ぶ体験（田老第一小4年生）

川井小学校1,2年生の皆さんは生活科の学習で図書館川井分室と資料館を見学しました。



ミニ企画展の鉄道模型を見学する様子（川井小1,2年生）

◆小物作りの体験ができます

当館では「昔の技術と自然の素材で小物作り」をテーマに、8つの体験メニューを用意しています。現在は新型コロナウイルス感染症対策として、短時間の作業で完成する2つのメニューが体験できます。

「くめんだけ」は、地域に伝わるタケでできた知恵の輪で、実際に作って解いてみます。作るのは簡単ですが、なかなか解くことができず皆さん悩むようです。



「くめんだけ」タケ管を移動させるにはどうしたらよいか考えます。



クラフトテープでリースを作り、飾りつけをします。

「桶のたが」の結び方で作るリースは、大人向けにはリースの土台から製作しますが、子ども向けには用意してある土台に好きな飾りを選んでつけるだけ、というように作業工程を調整できますので、是非ご利用ください。

◆フェイスブックページはじめました

当館では独自ホームページで常設展や活動の様子を紹介しています。あわせて、国の重要有形民俗文化財に指定されている「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」のデータベースや実測図などの資料も公開しています。このほど、ホームページに加えてフェイスブックページもはじめました。世界最大のSNSといわれるフェイスブックを利用して、開催中のイベントや企画展の様子など、さまざまな情報を発信しています。北上山地民俗資料館公式フェイスブックページへは、当館ホームページからもアクセスできます。

是非ご覧ください！



QRコード

(左) 北上山地民俗資料館公式ホームページ

(右) 北上山地民俗資料館公式フェイスブックページ



ちなみに、↑こちらは当施設のキャラクター、ハヤチネのオコジョ「ハッピー」です。ミニ企画展などでご案内係を務めたりしています。

◆「サテライトやまびこ」展示替え



「サテライトやまびこ」展示の様子（宮古市薬師塗漆工芸館内）

道の駅やまびこ館に隣接する薬師塗漆工芸館内に、北上山地民俗資料館のサテライト展示があります。これまで「南部木挽唄全国大会」の開催地にちなんで、木挽きの道具などを展示していました。この度、展示替えを行い、やまびこ産直館にある郷土食コーナーにちなんだ「郷土料理」をテーマにした資料紹介を行っています。展示は食に関する道具のごく一部ですが、これまでに地元の方にご協力いただいて記録した、「そば切り」や「栗蒸かし」などの郷土料理のレシピもおいていますので、是非お立ち寄りください。

◆出張展示「やまびこ館」「里の駅おぐに」

国道106号沿いの道の駅やまびこ館と国道340号沿いの「里の駅おぐに」にスペースをお借りして出張展示を行っています。今は見かけない道具や季節のものなど、こちらもお注目ください。



◆ご協力ありがとうございました!! (個人から、50音順)

【資料寄贈】令和3年4月1日～令和4年3月31日まで

浅沼貴美子様、泉山富久子様、伊藤隆司様、伊東なお子様、因幡繁之様、岩谷眞様、上居勝弘様、菊池俊一様、木村明夫様、工藤美砂子様、黒澤良一様、佐々木松夫様、高野長生様、武内寛様、田畑拓夫様、中里恵子様、西野満様、福地末治様、古館徳雄様、松草ちか子様、山代生様、湯澤隆弘様、米澤豊様、岩手県立宮古高等学校様、宮古消防署川井分署様

【聞き取り調査等協力】令和3年4月1日～令和4年3月31日まで

荒矢寿峰様、菊池俊一様、関口喜三郎様、田畑拓夫様、中村文男様、三浦秀明様、山口芳松様、横道廣吉様

→こちらは同じくカモシカの「カモン」です。ハッピー同様よろしく願いいたします。

1,500人を越える方々にご見学いただきました！



◆令和3年度の入館者数(人)

一般	学生	小・中・高	団体	合計
1,232	6	147	267	1,652

◆ 館 長 コ ラ ム ◆

新たな展開を模索 ～ミニ企画展～

今年度も、全国的に新型コロナウイルス感染拡大が続き、当館も8月13日から31日まで臨時休館、例年開催していた6月の「神楽共演会」、そして10月の「畑の水車まつり」も2年連続中止に追い込まれるなど、少なからず影響を受けました。

その一方では、新型コロナウイルスワクチン接種も進み、“ウイズコロナ”の時代と言われ、今までとは違った取り組み、対応が必要となってきました。前号の「資料館だより No27」には、インターネット社会における様々なコンテンツの導入や活用について若干記述しましたが、予算も人員も限られた当館にとって現実的には実現可能な部分は少ない。その中であつても、昨年10月からは遅まきながら、フェイスブックページを開設したところです（詳しくは5ページで）。

“来館者の増”を目指すのは、全国どこの博物館・資料館でも永遠の課題となっています。平成6年（1994）開館の当館においてもそのとおりですが、取り巻く環境は、少子高齢化、人口減少、高速交通網整備など年々厳しさを増しているのが実状です。例えば、人口をみると、当館の位置する旧川井村地区は、平成21年（2009）の宮古市との合併時には、3,349人でしたが、令和3年（2021）4月には2,136人まで減少しました。また、宮古盛岡横断道も全線開通しましたが、川井地区中心部へのインターチェンジ設置はなく、いわば素通り状態となりました。こうした逆境ともいえる状況の中、何かアクションを起さなければと、職員一同で危機感を共有したところです。

当館では、年に1回企画展を開催していますが、これは、所蔵資料を調査・研究した成果の一環として行っている側面も強く、自ずと企画テーマも当館資料中心となります。博物館は、社会教育法第9条に「社会教育のための機関」と位置付けられており、この原点に立ち戻り模索したのが、「ミニ企画展」です。当館所蔵資料に拘らず、川井地区の様々な“こと”や“もの”をメインテーマに取り上げてみようという企画となります。展示する資料や情報も地元の方々から提供を受けるといった手法を取りました。また、限られた人

員と予算であるため、併設する川井生涯学習センターと図書館川井分室との共催事業とし、連携して開催することとしました。令和3年度は次のとおりテーマを設定し、年4回開催しました。

①	「早池峰の花」 期 間 6/1～7/24 来館者 326 人	早池峰山に特有の高山植物の花の写真を中心に、地域の愛好家の方から写真提供いただき展示。
②	「夏休みワクワク昆虫展」 期 間 8/1～8/12 来館者 111 人	昆虫標本を提供いただき展示。また、岩手日報ジュニアウイークリー「いわての虫」記事のパネル展示。
③	「地域の夢を運んだ山田線」 期 間 11/19～1/10 来館者 374 人	川井地域を中心に、駅や列車、山田線の歴史を紹介。地域の方から写真や資料を提供いただき展示。
④	「みやこの文藝作家」 期 間 2/15～3/20 来館者 106 人	図書館川井分室所蔵資料を中心に、宮古市の方が執筆したり関係したりした書籍を紹介。

企画・展示のノウハウを持つ資料館、各種講座等を通じて得た人的ネットワークを持つ生涯学習センター、図書資料を持つ図書館分室と、それぞれの持ち味を活かす形での「ミニ企画展」。地元学という程のものではありませんが、やはり自分たちの住む川井地区が主人公となる展示のためなのか、友人や知り合いを連れて二度、三度と見学に来る地元の方々、また、口コミやインターネットへの投稿等も相まって川井地区以外からの来館者も徐々に増加してきました。この開催結果を検証・評価し、来年度も継続していくこととしました。

最後に、今年度も名久井芳枝名誉館長の^{しょうへい}招聘がかなわず（県外在住のため）、来年度こそはご来館賜り、ミニ企画展なども含め、様々な観点からご教授を賜りたいと思っております。

当館では、各種講座や小品づくり体験もできます。今後ともご利用の程、よろしくお願い申し上げます。

宮古市北上山地民俗資料館長 鎌田祐二

◆ミニ企画展、4回開催◆

左ページの館長コラムで紹介したミニ企画展について、展示の様子などを紹介します。会場はどれも当館1階ロビーです。限られたスペースで資料数も少なくなるため「ミニ企画展」としましたが、地域のたくさんの方からご協力をいただき、多岐にわたるテーマについて3館（川井生涯学習センター、市立図書館川井分室、北上山地民俗資料館）の職員が工夫しあって企画、展示することができました。

①「早池峰の花」(6月1日～27日)

「固有種をはじめとする美しい花々」をサブテーマに、川井地域ゆかりのアマチュアカメラマンや自然愛好家10名の方から写真をご提供いただき、ハヤチネウスユキソウなど4種の固有種をはじめ、絶滅が危惧されるものや珍しいものなどおよそ230点の写真と、早池峰山の植物に関する図書資料を展示しました。さまざまな季節の花の写真を一堂に集めての展示は大変好評を得たため、開期を1か月ほど延長し、さらに区界高原ウォーキングセンターへ写真を貸し出し、出張展示となりました。



①区界高原ウォーキングセンターでの出張展示

②「夏休みワクワク昆虫展」(8月1日～12日)

新型コロナウイルス感染症拡大の状況から休館となり、開期が短縮となりました。市内在住の岩手虫の会会員の方から標本箱14箱をお借りし、併せて昆虫の絵本や図鑑のほか、岩手日報ジュニアウィークリーに連載された岩手虫の会の皆さんによる「いわての虫」の記事も許可を得て展示しました。関連して「虫の標本の作り方講座」も開催しました。

③「地域の夢を運んだ山田線」(11月19日～1月10日)

地元の鉄道ファンの方から鉄道写真や関連資料を



②「虫の標本作り講座」で昆虫標本について説明を受ける参加者

お借りして展示し、あわせて山田線の歴史や慰霊碑などもパネルで紹介しました。なかでも、北上山地を走る山田線をイメージして制作されたジオラマは開期終了後も一部の写真とともに展示を続けています。鉄道玩具コーナーや顔出しパネルを用意したところ、おそらく開館以来初めてとなる子どもたちのリピーターにも楽しんでいただくことができ、当館にとってもうれしい展示となりました。



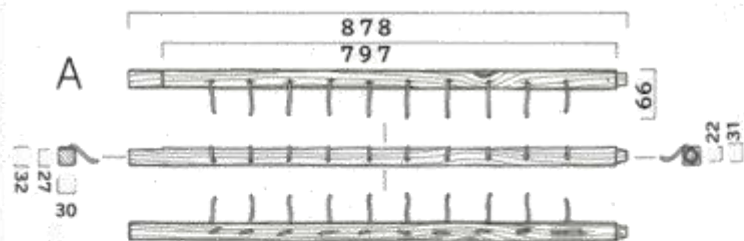
③顔出しパネルやおもちゃなど、子ども向けコーナーの様子

④「みやこの文藝作家」(2月15日～3月20日)

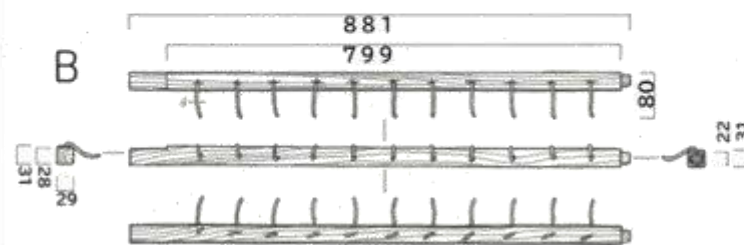
「第62回岩手の読書週間」にちなんで開催。川井分室所蔵の市ゆかりの作家38名の作品144点を展示し、貸出しも行いました。小説のみならず郷土の歴史や方言、あるいは絵本や紙芝居などさまざまなジャンルの本が出版されていることがわかりました。



④「みやこの文藝作家」展示の様子

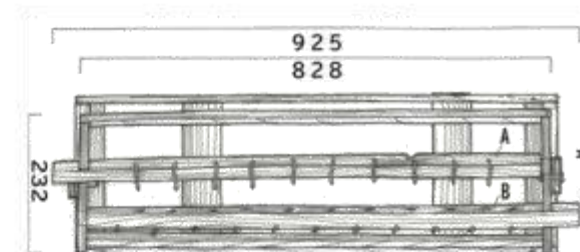


まぶしおり機 (No.2050)

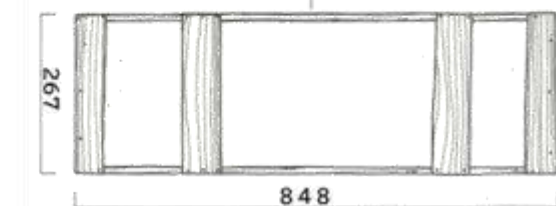
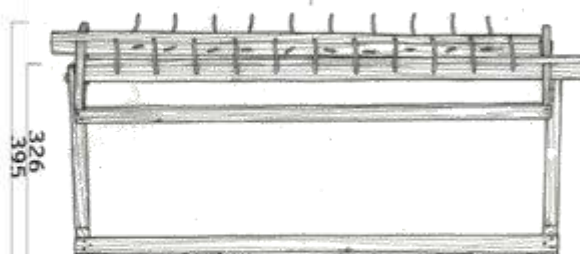


← [まぶし
おり機] で
[三角まぶ
し]を作る様
子(中村文男
さん)

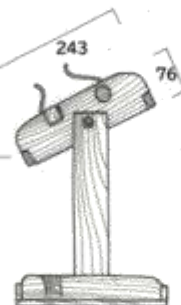
[三角まぶし] ([まぶし
固め]) に固定して繭を作
らせた状態)



*A・B材は固定されておらず、
取り外しが可能



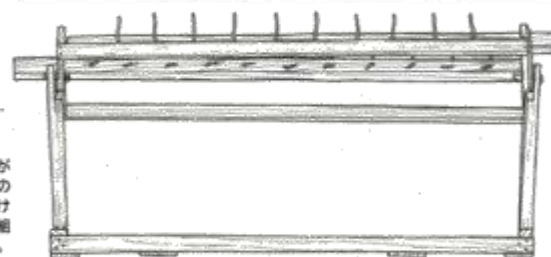
まぶしおり機 (No.2050)
作図者 矢作智恵子さん



《側面裏側略図》



山形に切り込みが
入っており、繭の
部分が左右に傾け
られるような仕組
みになっている。



資料名 まぶしおり機 (No.2050)
寄贈者 高森清志さん
話者 中村文男さん
使用方法 [三角まぶし]を作る道具。[まぶ
し]とは、蚕が繭を作るときの支え
となるもの。[まぶしおり機]の2段
あるかぎの部分に、わらを 1 本ず
つひっかけて、三角形を作りなが
ら右方向に進む。次の段は、台ご
と向きを変えて、再び右方向に進
む。このとき 1 列をかぎの部分から
はずすことで、蛇腹状に連続する。
[三角まぶし]には規格があり、22
段になるようにした。完成した三角
の枠一つ一つがカイコに繭を作ら
せる枠になる。[四角まぶし]もあつ
たが、三角形の方が安定してつぶ
れない形だった。

備考 ・小学生の頃に[三角まぶし]を作
る手伝いをした。1枚作ると10円と
か20円とかの小遣いを親からもら
った。養蚕が盛んだっころ、学校
には「養蚕休み」があり、子どもも
手伝いをした。カイコが成長した5
齢のときで、最も忙しい時期。
・[まぶし]にはカヤを折り曲げて作
った[ゲエダカまぶし]や、昭和 30
年代以降に普及したボール紙でで
きた[回転まぶし]などがある。
・「5月30日掃き」は、遅霜でクワ
の葉が被害にあわない目安。それ
でも6月に入って遅霜がきて蚕を
全滅させてしまった年もあった。
・昭和36年頃から葉タバコ栽培が
盛んになり、次第に養蚕が下火に
なってきた。

当館では開館以来、名誉館長の名久井芳枝先生の指導のもと、実測図の作製を継続して行っています。

実測図は民俗資料をきちんと計測して図面化したもので、民俗資料の素材、構造、製作技術、外形などの
情報を伝達することができます。名久井先生は実測図には次の3つの役割があると述べておられます。

◆記録保存資料(未来への情報伝達) ◆啓蒙資料(一般の人々への情報伝達) ◆学術資料(研究者への情報伝達)